

鳥取市政懇話会

高速道路を活かした地域経済の活性化と雇用の創出部会

(まとめ)

【開催実績】

- (第1回) 平成19年 5月29日
- (第2回) 平成19年 8月21日
- (第3回) 平成19年12月25日
部会テーマ「砂丘を活かした地域経済活性化」
- (第4回) 平成20年 5月19日 (中間報告)
部会テーマ「高速道路を活用した地場産業の振興」
- (第5回) 平成20年 7月30日
部会テーマ「関西地区視察」
- (第6回) 平成20年10月1日
(講演) 鳥取砂丘の夢～観光資源から経済資源へ～
部会テーマ「具体的経済活性化方策」
- (第7回・最終) 平成20年11月25日

【はじめに】

- 昨今の世界的な金融危機、パナソニックによる三洋電機の買収、少子高齢化・人口減少、都市と地方の経済格差などを背景に、本市の産業は大きな不安を抱えている。
- 本市が活力ある都市として発展を続けていくためには、2009年の鳥取自動車道の開通を契機として、将来にわたる強固な経済基盤と雇用環境を整えていく必要がある。そして、今後より一層、官民一体となった戦略的で思い切った取組みが必要と考える。
- そのためのハード、ソフトの諸施策、施策立案の考え方などを、当部会の1年半の議論のまとめとして次のとおり提言する。

1. 砂丘を活用した地域経済活性化

砂丘と遊ぶ

リピーター対策として、サンドボードやパラグライダー、ジオパークのウォークラリー、清掃ハイク等、体験できるものを育てていく。(海野、福島委員)

もっとコンサートなどのイベントを持ち込みたい。(福島委員)

砂丘をあらゆる角度から、広く見せる工夫を。(飛行機、船、オープンバス、周遊コース)(中西委員)

PR戦略

砂丘と温泉、砂丘とカニ、砂丘と のような大まかなセットを、月別に設定。(川上委員)

若者が砂丘に興味を持つ取り組みを、「因幡の祭典」にあわせ、広告代理店などにPRできないか。(例 砂丘を恋のメッカに、ロマンチックな砂丘の夕日、月の砂漠・・・等)(安養寺委員)

県外から除草ボランティアに参加される方に、もっと他の砂丘の楽しみ方を味わっていただけないか。(神部委員)

コンセプト、キャッチコピーをつくり、それを軸にして集客に繋げる。(海野委員)

地元の対応

受け皿として積極的な地元の対応を。(神部委員)

滞在を狙い吉岡温泉との連携を。(福島委員)

やる気ある民間企業には、十分な支援を。(中西委員)

砂丘に滞在できる(拠点となる)宿泊施設の拡充。(安養寺、福島、中西委員)

サーファー等、若者層が滞在できるような、快適なサービス、宿泊施設の整備。(中西委員)

その他

周辺環境の美化。(汚い国立公園からの脱却を)(中西委員)

砂丘部分とリアス式部分とのルート設定。(中西委員)

らっきょう畑の観光活用。(中西委員)

○県立美術館の砂丘周辺への誘致。(福島委員)

2. 総合的な産業振興策

地場産業

○県産品・市産品のアピールの場として「道の駅」の活用。(福島委員)

○鳥取の強みの分析と集中投資。(谷口、海野委員)

企業誘致・工業振興

○河原工業団地を「因幡らしさ」を売りにした健康産業の集積地に。(豊かな農林水産資源の活用や研究所進出で雇用も改善)(福島委員)

○官民で設置した企業訪問・販路開拓チームによる近畿圏全般への営業の充実(清水部会長)

農林水産業

- 特産品で全国発信できる新たな加工食品を開発。(神部委員)
- 市の斡旋による市民農園、田畑オーナー制度の充実。(安養寺委員)
- 農業を越えた中山間地域対策(限界集落対策) 条件不利地域への支援。(川上委員)
- 農地をまとめることと、農地を利用する人(担い手)の政策は区別すること。(川上委員)
- 労働対価の確保策の検討。(地域レベルで持ちこたえられる経済の構築、地産地消の促進)(川上委員)

観光・PR戦略

- アクセス看板・交通表示などの充実。(鳥取自動車道にイラスト入り観光案内を)(安養寺委員)
- 健康的な街(食生活、住環境)を売りとしたPR戦略。(海野、福島委員)
- 観光地駐車場の整備、観光地間のアクセス、「道の駅」巡り、宿泊先と観光地の連携。(安養寺委員)
- 明確で長期間使える鳥取の観光コンセプトの確立。(海野委員)
- 駅北口の整備(ケヤキを観光バス駐車場、レンタサイクルの設置)(安養寺委員)
- 観光PR情報ネットの開発 GPS(カーナビ)・携帯電話を活用した総合観光案内の充実。(例:エリア別混雑状況、自動観光地誘導、観光地音声ガイド等)(清水部会長)

商業振興

- 誓文払いの復活。(現代版誓文払いを全商店街で展開し、中心市街地の再生を)(安養寺委員)

農・商・工連携の推進

- 農・商・工の連携による新たなビジネス・新たな雇用の創出支援(清水部会長)

若者世代の意見の活用

- 各分野の若手経営者等による、「雇用の場創出」に特化した「20万都市維持青年プロジェクトチーム(仮称)」の発足。(清水部会長)
- 実業高校、大学の学生等のアイデア、プロジェクト研究等の利活用、実用化支援。(清水部会長)

【おわりに】

上記について、実現可能性を充分考慮し、施策に取り入れられたい。

市の施策が現状分析に立脚したものになっているか、検証することも必要。

場当たりの対策ではなく、資源や現状を一つひとつ丁寧に分析したうえで、有効な対策を講じられたい。